

# 第 20 回英語語法文法セミナー

テーマ「英語語法文法研究の知見を授業に生かす」

司会・講師 西脇幸太（岐阜聖徳学園大学）  
講師 野中大輔（工学院大学）  
講師 内田 諭（九州大学）  
講師 井上永幸（広島大学）

日時： 令和 6 年（2024 年）8 月 7 日（水）13:30～17:30  
会場： 大阪公立大学文化交流センター（ホール）  
（大阪市北区梅田 1-2-2-600 大阪駅前第 2 ビル 6 階）  
参加費：2,000 円（資料代を含む）  
当日、受付にてお支払いいただきます。

プログラム：

13:30～13:40	会長挨拶とセミナー世話役からの全体趣旨説明
13:40～14:20	西脇幸太（岐阜聖徳学園大学）「言語活動を適切に行うためのポイント －If I were you の使用実態とレマ化の危険性を例に－」
14:20～14:25	-----休憩-----
14:25～15:05	野中大輔（工学院大学）「英語のよくある言い回しとの向き合い方 －「豊かな文法」の立場から－」
15:05～15:10	-----休憩-----
15:10～15:50	内田 諭（九州大学）「大規模コーパスと生成系 AI を用いた語法分析」
15:50～15:55	-----休憩-----
15:55～16:35	井上永幸（広島大学）「コーパスとコーパス準拠の辞書・参考書を使いこなす」
16:35～16:45	-----休憩-----
16:45～17:25	質疑応答
17:30	セミナー終了

---

※ 本セミナーは、学会会員以外の方を含め広く開かれているものですので、どなたでも自由に参加できます。会場収容人数（80 名）の関係から、参加ご希望の方は英語語法文法学会ウェブサイト (<https://segu.sakura.ne.jp>) にアクセスし、申込フォームに必要事項を記入の上、お申し込みください（6 月上旬に詳細を同サイトに掲載します）。申込み締め切りは令和 6 年 7 月 29 日（月）です。先着順で受け付けます。必要な方には「セミナー受講証明書」を発行いたします。

## 各講師の発表概要

### 言語活動を適切に行うためのポイント

－If I were you の使用実態とレマ化の危険性を例に－

西脇幸太（岐阜聖徳学園大学）

適切な言語活動を行うためには、言語事実を的確に捉え、学習者に典型的な用法から提示することが重要である。本発表では、言語活動を適切に行うためのポイントを英語語法文法の観点から提供する。具体的には、以下の項目を取り上げる。第一に、If I were you の機能と使用場面の典型を検討し、検定教科書にも言及しながら具体的な言語活動の一端を提案する。加えて、If I was you や Were I you をいかに扱うべきかについても検討する。第二に、〈To one's + 感情を表す名詞〉や〈To (the best of) one's knowledge〉のように人称代名詞の所有格形を one's と辞書形にまとめる（レマ化する）ことがあるが、表現によっては生じやすい人称と生じにくい人称があることを提示する。また、人称によって、使用されやすい文の種類にも変化が生じることを観察し、レマ化には危険性が伴うことを認識した上で、指導上の留意点について議論する。

<参考文献>

- 西脇幸太. 2021. 「他者の立場で考える活動－仮定法過去を例に（連載「コミュニケーションにつながる文法指導」第3回）」『英語教育』2021年6月号, 56-57.
- 西脇幸太. 2023. 「Lemma化の危険性：one's を例に」『立命館言語文化研究』34巻3号, 27-38. ([https://ritsumei.repo.nii.ac.jp/record/2000290/files/03\\_lcs\\_34\\_3\\_nishiwaki.pdf](https://ritsumei.repo.nii.ac.jp/record/2000290/files/03_lcs_34_3_nishiwaki.pdf))

### 英語のよくある言い回しとの向き合い方

－「豊かな文法」の立場から－

野中大輔（工学院大学）

製薬会社ファイザーのCEO アルバート・ブーラ氏は Science will prevail with Covid-19 here to stay と述べたそうである（Bloomberg の 2021 年 1 月の記事）。この英文のように、「勝つ」を表す prevail の主語にはしばしば抽象名詞が用いられ（特に justice や truth）、will を伴うことが多い。[抽象名詞+will+prevail] という言い回しで覚えるのが望ましいだろう。こういった話をすると、「単語1つ覚えるのも大変なのに、そういう言い回しまで覚えるのはもっと大変だ」「ある表現を見ても、それがよくある言い回しにあたるかどうか自力だとわからない」といった感想をもらうことがある。しかし、果たして言い回しは学習上そんなに厄介な存在なのだろうか？本発表では、この問いに対して、『英語教育』誌の連載「実例から眺める『豊かな文法』の世界」で示した立場から回答したい。

<参考文献>

- 平沢慎也・野中大輔. 2021-2022. 「実例から眺める『豊かな文法』の世界」『英語教育』2021年4月号から2022年3月号. (<https://researchmap.jp/dnonaka/misc/44080505>)

## 大規模コーパスと生成系 AI を用いた語法分析

内田 諭（九州大学）

近年の語法研究の多くは、コーパスでの検証などを含む用例分析を中心としたものが多い。これはコンピュータやインターネットなどの情報技術の進歩に支えられて進められてきたものとも言える。テクノロジーは、2022年の年末に登場した ChatGPT に代表される生成系 AI へと進んできた。果たして、生成系 AI は語法研究に寄与しうるものだろうか。

本発表では、教育現場で広く教示されている語法や構文を取り上げ、大規模コーパスでの検証方法と、生成系 AI を使った検証方法を紹介し、その結果を比較しながら議論する。コーパスは無料でアクセス可能な大規模均衡コーパスである Corpus of Contemporary American English (COCA) を取り上げ、可変部分を含む構文 (it is + 形容詞 + that/to など) の検索方法を示す。また、生成系 AI については広く利用されている ChatGPT 3.5 を検証に用いる。授業準備のための使い方や授業内での利用方法、また学術研究において留意すべき点などについても議論する予定である。

<参考文献>

- Uchida, Satoru. 2024. "Using early LLMs for corpus linguistics: Examining ChatGPT's potential and limitations." *Applied Corpus Linguistics*, Volume 4, Issue 1. (<https://doi.org/10.1016/j.acorp.2024.100089>)

## コーパスとコーパス準拠の辞書・参考書を使いこなす

井上永幸（広島大学）

コーパスを使った研究手法にはコーパス基盤的な (corpus-based) な手法とコーパス駆動的な (corpus-driven) 手法がある。簡単に言うと、前者は先行研究をコーパスを使って検証する立場を表し、後者は先行研究に拠るのではなくコーパスを種々の観点から観察・分析することで新たな発見をしようとする立場である。コーパスが、辞書編集・教材開発は言うまでもなく、語法・文法研究に用いられるようになって久しいが、教育現場で用いられる辞書編集・教材の場合、どの部分にコーパス分析の成果が生かされているのかわかりにくい場合がある。本発表では、実際に辞書編集や教材開発でコーパスを活用した経験を踏まえて、そういった辞書や教材を使うときの注意点やより効果的な活用方法、また、実際に教師が授業準備としてコーパスを活用する際の注意点について紹介してゆく。

<参考文献>

- 井上永幸. 2010. 「辞書編集におけるコーパス活用」『英語語法文法研究』第 17 号 (英語語法文法学会), 5-22.